

神秘学ポエジー 風遊戯
photopos
133

【神秘学ポエジー～風遊戯 第 266集】 photo ヴァージョン

photopos 3301-3325

《2023.9.22～ 2023.10.16》

神秘学遊戯団

わたしは
ひとりだが
ひとりではない

わたしは
時空を超え
同時的に
転生を繰り返す

あるいは
今という
パラレルワールドを生き

今ここにいながら
過去にも未来にも存在する

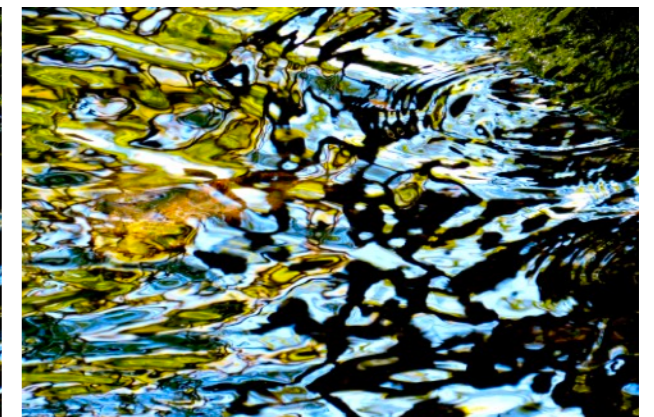
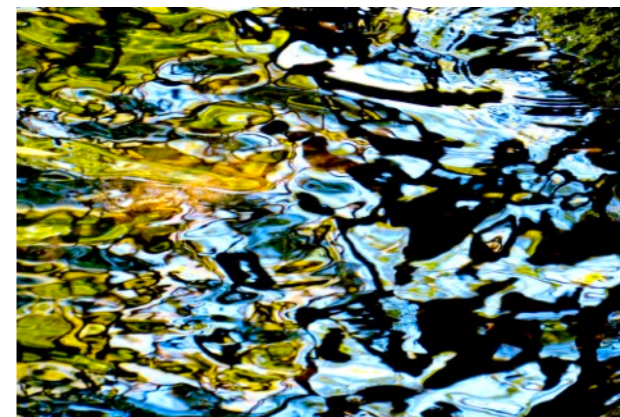
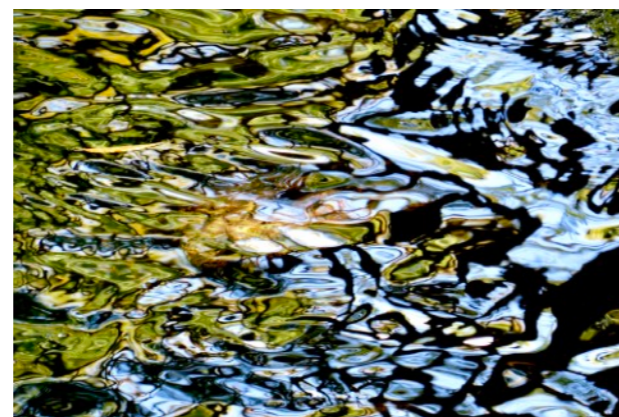
わたしは
ひとりだが
ひとりではない

そして
わたしは海である

あるいは
わたしという
海の一滴

一滴は
この今を生き
やがて姿を変え
またあらたに一滴を生きる

どんな一滴になるか
わたしは時空を超え
自由を生きる



かつて
「知性の差が
顔に出るらしいよ
...困ったね」
というコピーがあった

いまや
知性の差
どころか
知性そのものが
見つからなくなったようだ

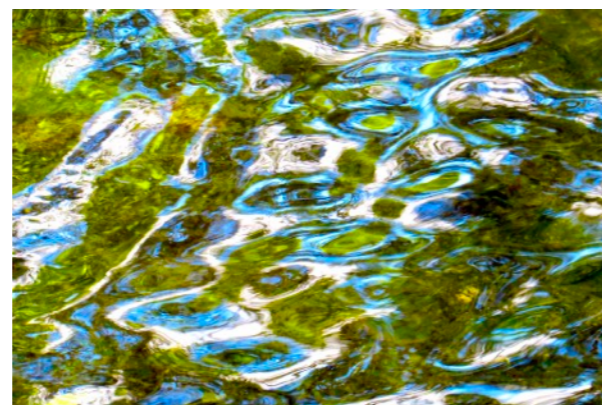
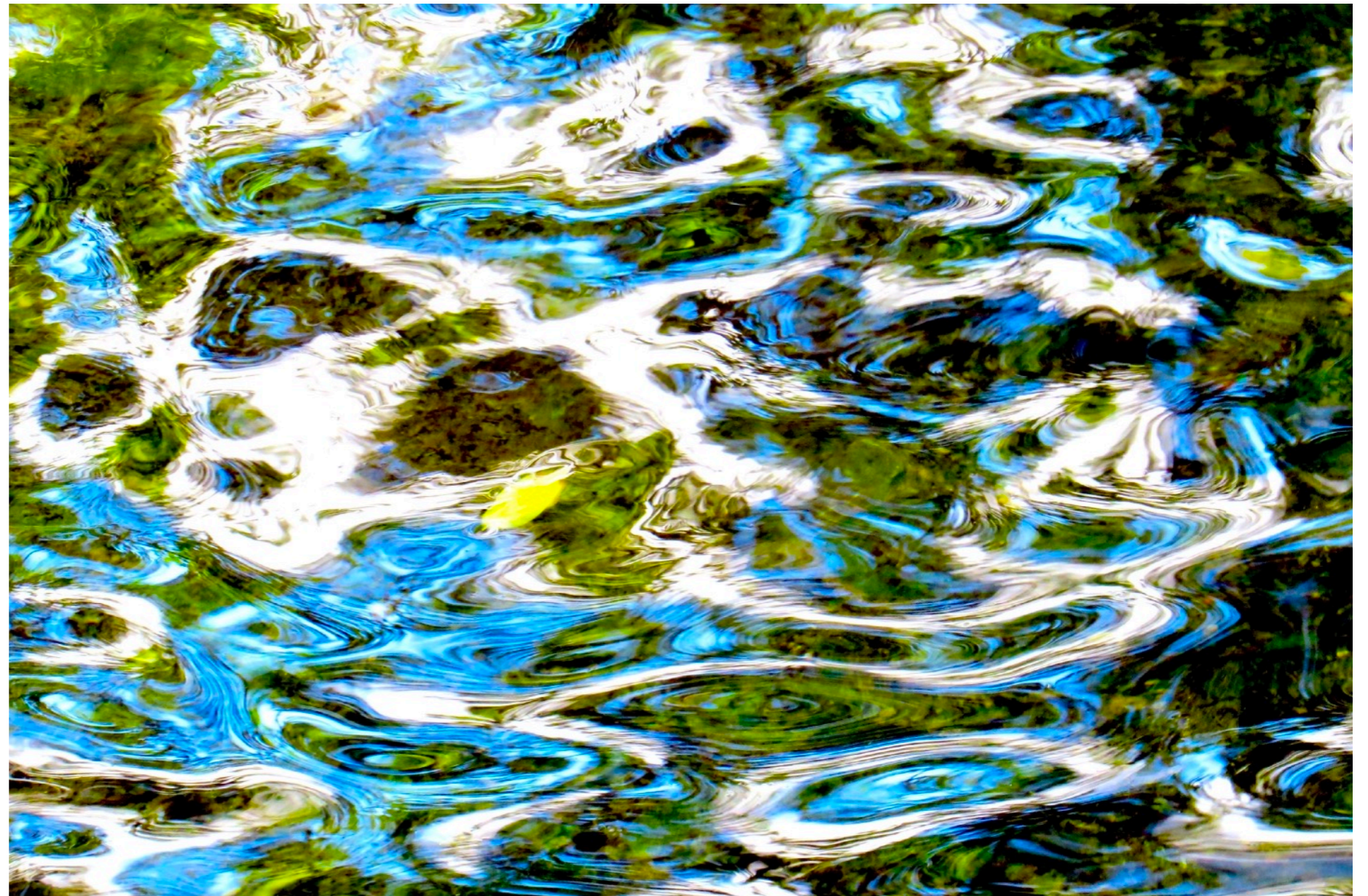
知性は
考えることからしか
生まれないが

いまや
考えてもらったことを
コピーするだけの
コピーばかり

じぶんの顔に
考えを貼り付け
「ペーストの差が
顔に出るらしいよ
...困ったね」

あるいは
「A I」の差が
思想の差に
なるらしいよ
...困ったね」
とするだけのようだ

「...困ったね」



どんなことばも
うたかたのごとく
変わりゆくだろうが

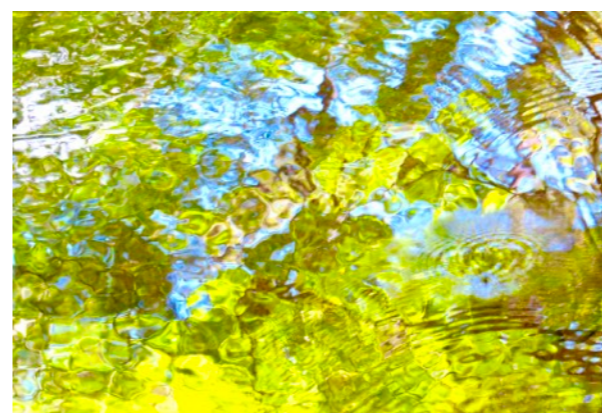
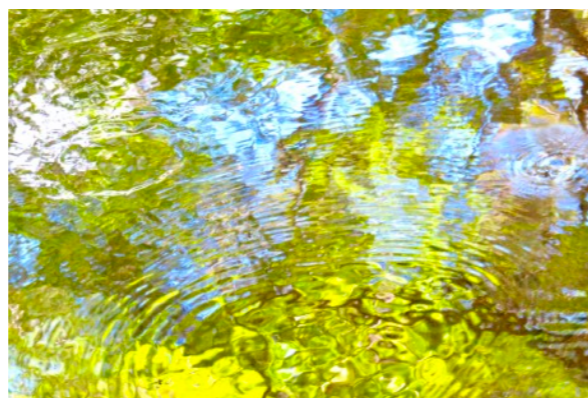
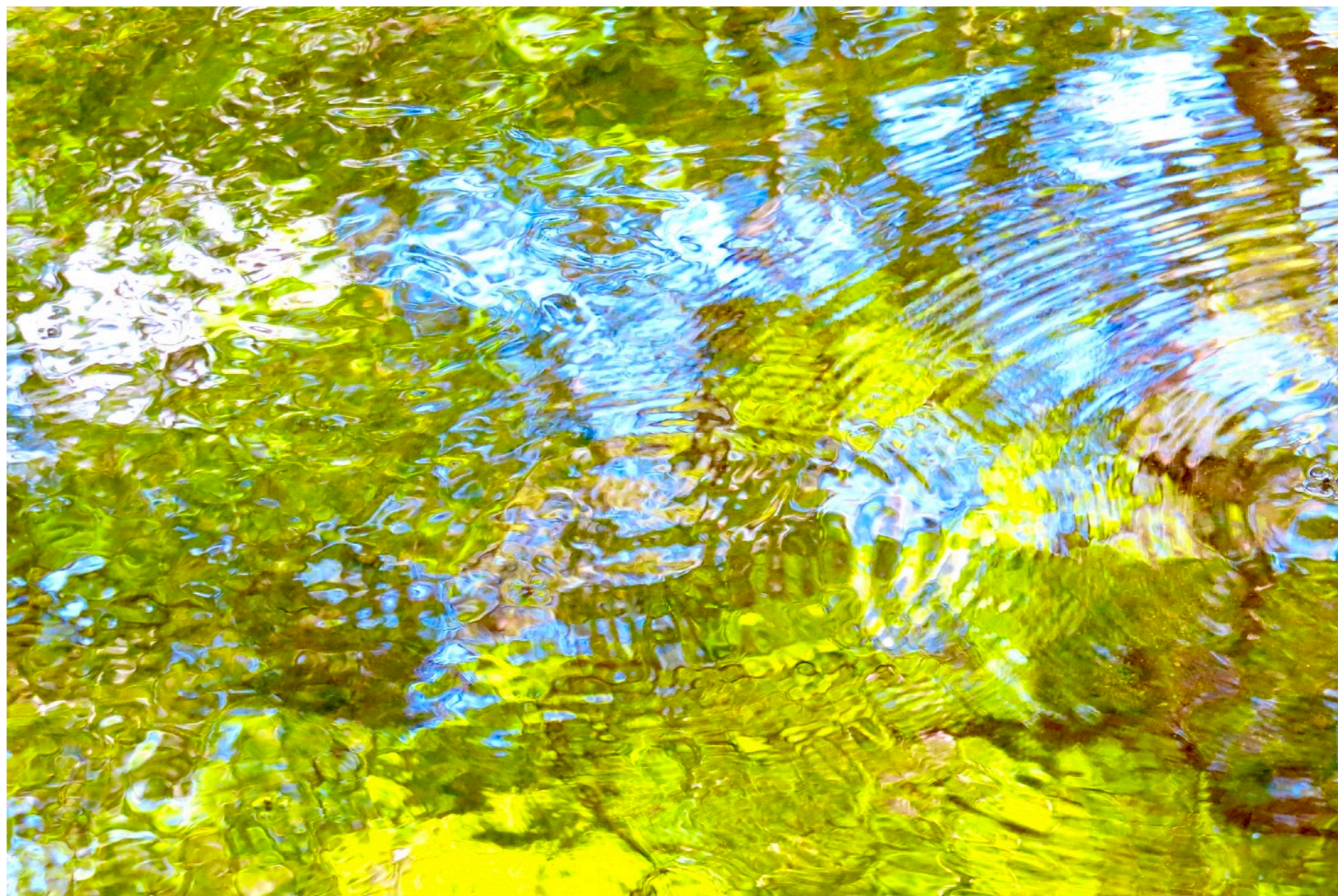
ほんとうのことばを
歌うことができたなら
そのことばの響きは
失われることはないだろう

どんなころも
うたかたのごとく
変わりゆくだろうが

ほんとうのころで
生きることができたなら
そのころの花は
咲くことをやめることはないだろう

どんな光も
うたかたのごとく
変わりゆくだろうが

ほんとうの光を
育てることができたなら
そのひかりのいのちは
消えてしまうことはないだろう



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

天使には
死すべきからだがない

からだのない
天使には
ひとのからだか
わかるだろうか

天使には
自由がない
天使は役割として
存在しているからだ

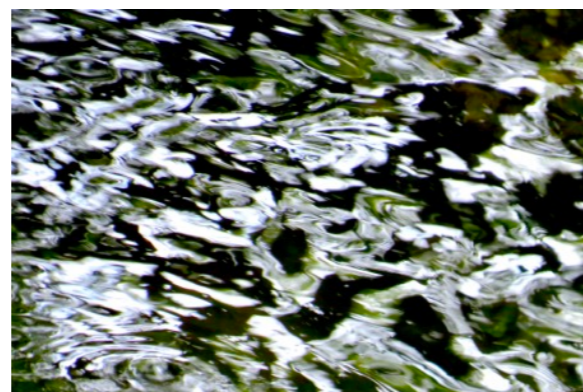
自由のない
天使には
ひとの自由か
わかるだろうか

AIには
死すべきからだがない

からだのない
AIには
ひとの
からだとしてのことばが
わかるだろうか

AIには
自由がない
AIは役割として
プログラムされているからだ

自由のない
AIに
ひとの自由か
語れるだろうか



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3305 2023.9.26

知を誇る者は
知に壁をつくる

知は知を疑い
知を超えねばならない

ちっぽけな知を笑う
愚者こそ
わが歩む道だと

理を誇る者は
理に自閉する

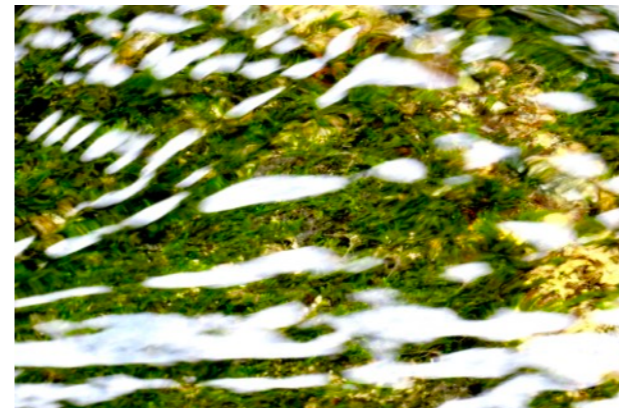
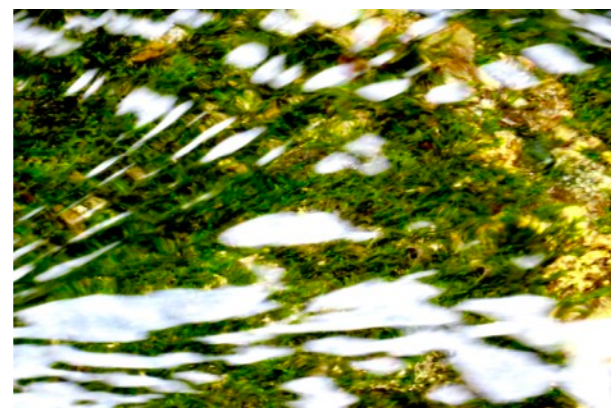
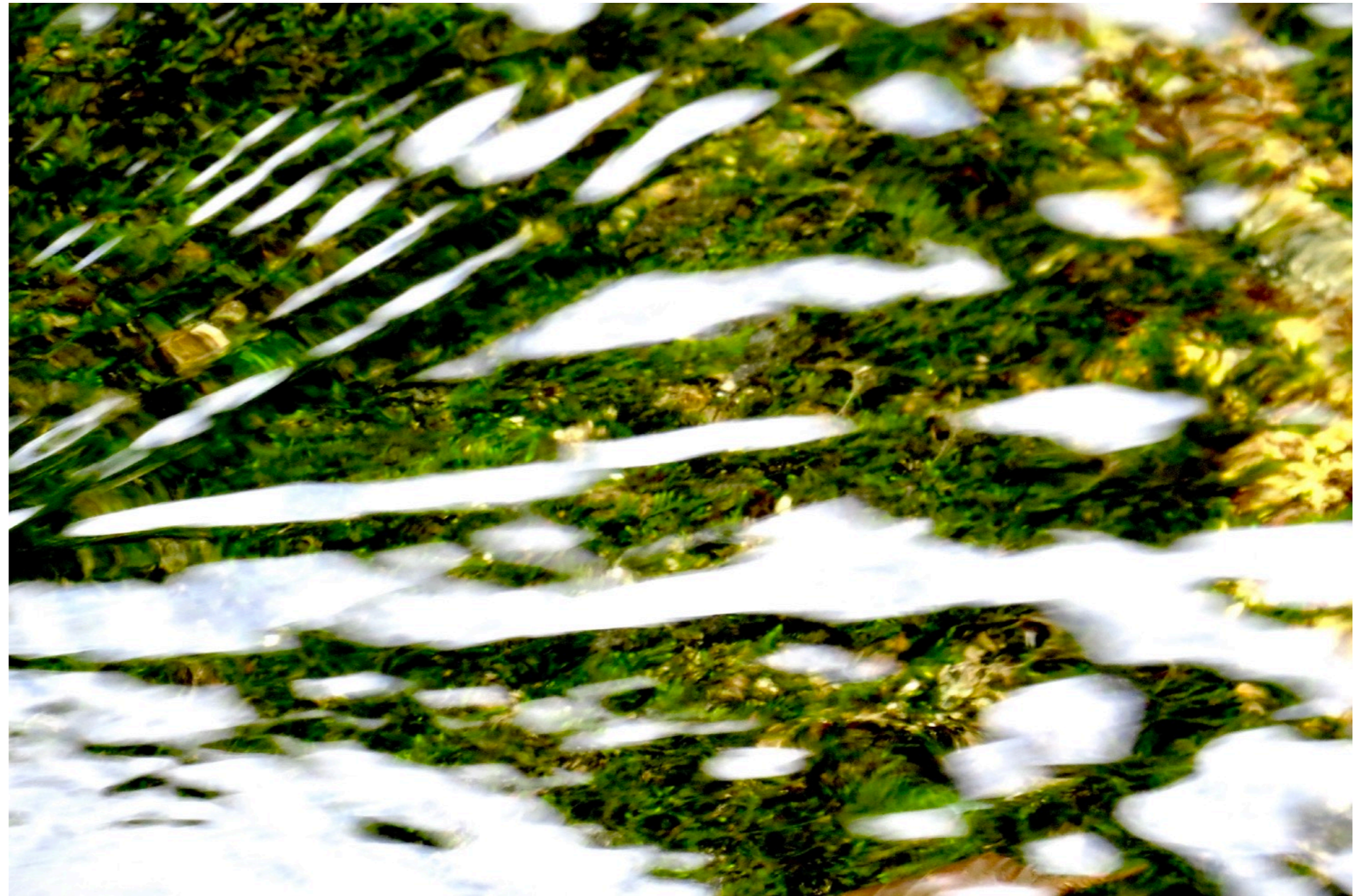
理は理を疑い
理を超えねばならない

死せる理に投げる
矛盾こそ
わが歩む道だと

言葉を誇る者は
言葉の外を失う

言葉は言葉を疑い
言葉を超えねばならない

不可視の言葉を見る
沈黙こそ
わが歩む道だと



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3306 2023.9.27

時は
照らしあっている

今を
生きるということは
過去を生き
未来を生きるということだ

今は
過去と未来に照らされ
過去は
今と未来に照らされ
未来は
過去と今に照らされている

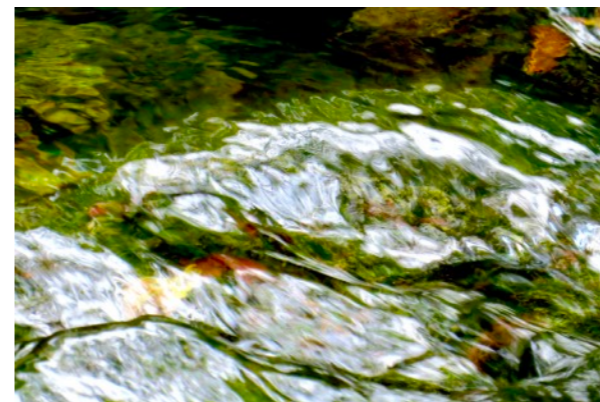
照らされながら
今も過去も未来も
宇宙は変幻し続けて止まない

私は
照らしあっている

この私を
生きるということは
過去の私を生き
未来の私を生きるということだ

この私は
過去と未来の私に照らされ
過去の私は
今と未来の私に照らされ
未来の私は
過去と今の私に照らされている

照らされながら
今も過去も未来も
私は変幻し続けて止まない



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

われわれは
自由の霊であるにも
かかわらず

自由がなんなのか
わからないから
あえて不自由さをつくりだし
このスクエアな世界で
四苦八苦しているようだ

なぜだかわからないが
それもまた
遊戯なのだろう

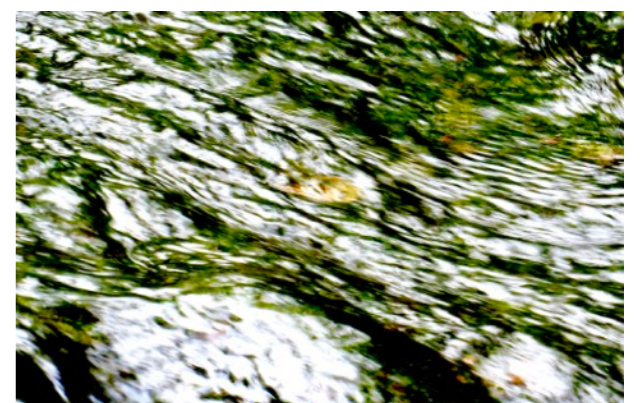
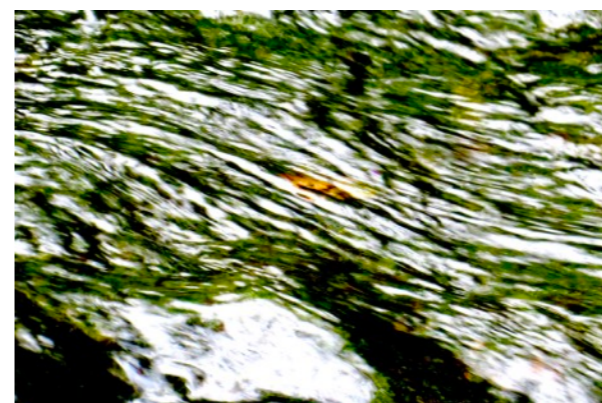
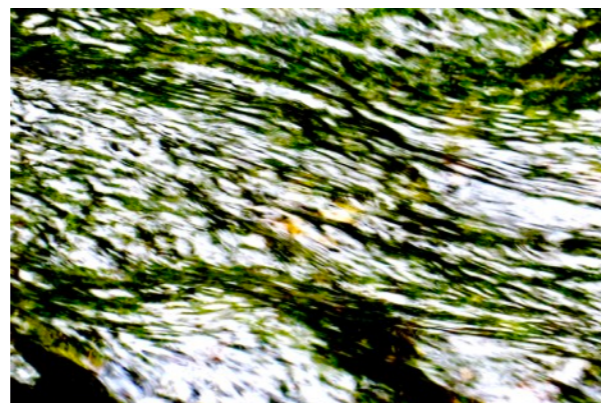
神はいるか
神は死んだか
そもそもいないか

死んだら終わりか
死んでも終わりでないか
それとも生こそが死か

そんな言葉の遊びで
矛盾をつくりだしりしながら
真剣に遊んでいるのだ

われわれ
自由の霊は
悪趣味なのか
好奇心旺盛なのか

遊んでいるのに
遊んでいることを
忘れてしまうことも
遊びにしてしまうほどに



時は
不思議だ

心は
無量の
今を生きている

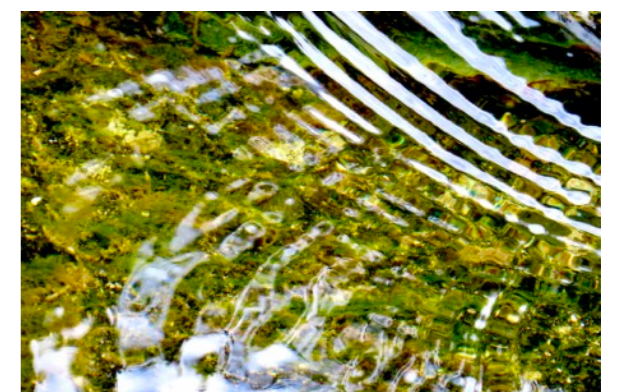
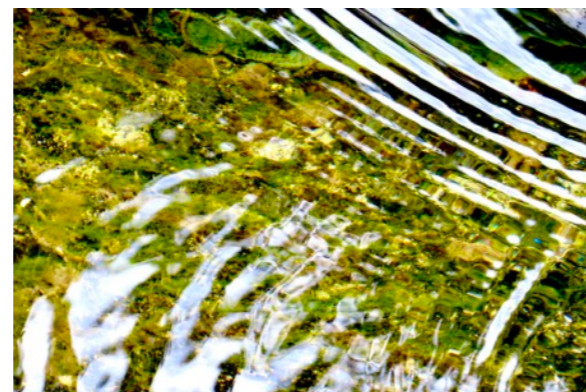
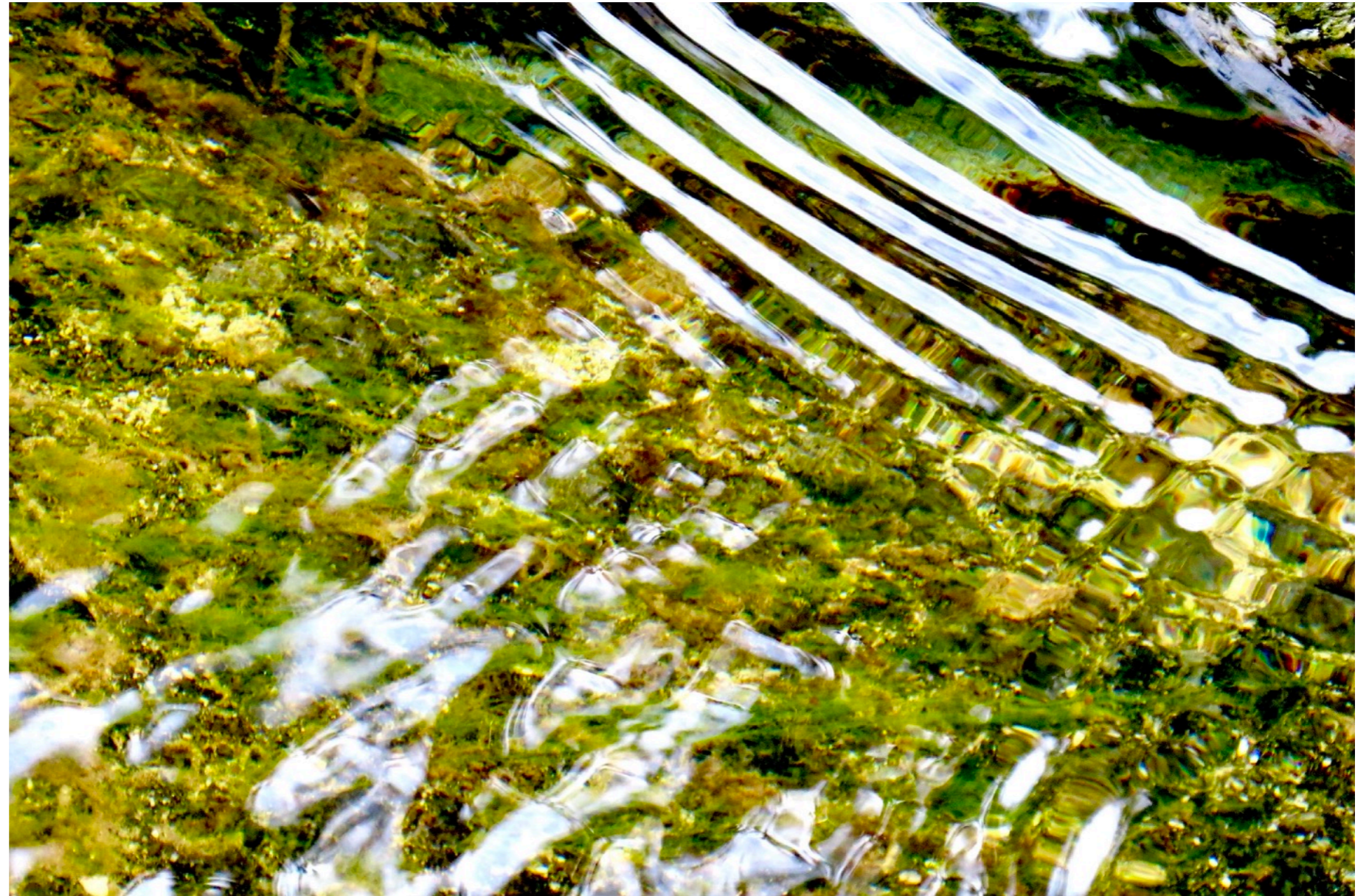
遙かな過去から
遙かな未来へ

無量の今が生まれ
心に照らされ
今を私に射影し

私は
喜び怒り
哀しみ楽しみ
今を生き

今に過去を
そして未来を
照らしているのだが

私は
そんな過去と未来から
自由になれるだろうか
今という時を
垂直に超え出て・・・



☆photopos-3309 2023.9.30

ひとつわかると
それ以外のことが
わからないことに気づく

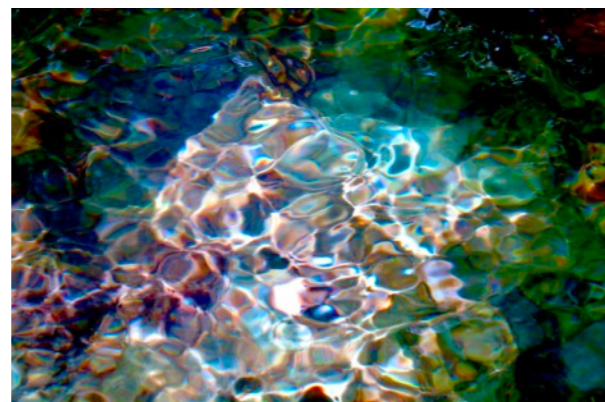
もうひとつわかると
わからないでいたことが
さらに見えてくる

わかることで
わからないことが見えなくなるとき
そこに落とし穴がある

明るい昼に
行燈を照らして
道をゆく禅僧のように

見えていることで
見えていない落とし穴を
見つけなければならない

落とし穴は内にある
自らの光で
内を照らすのだ



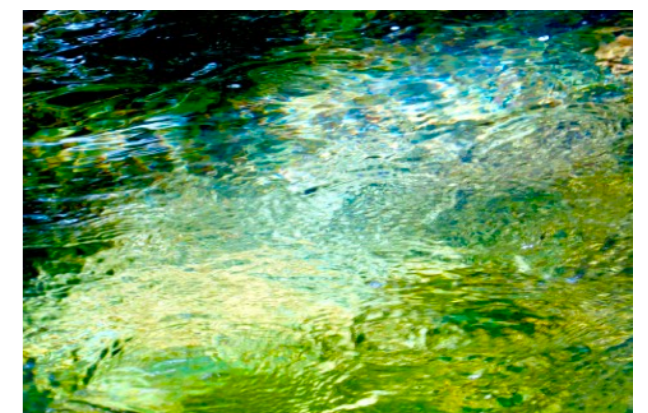
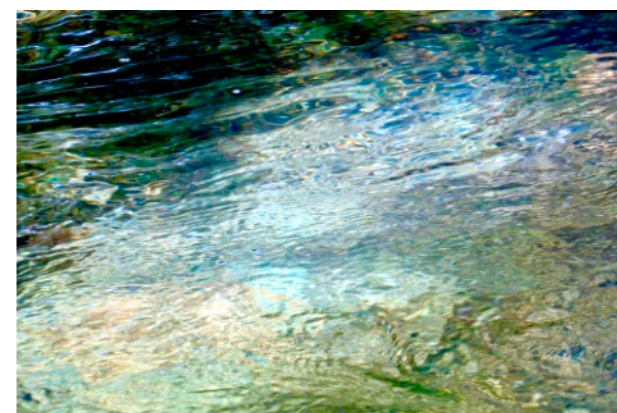
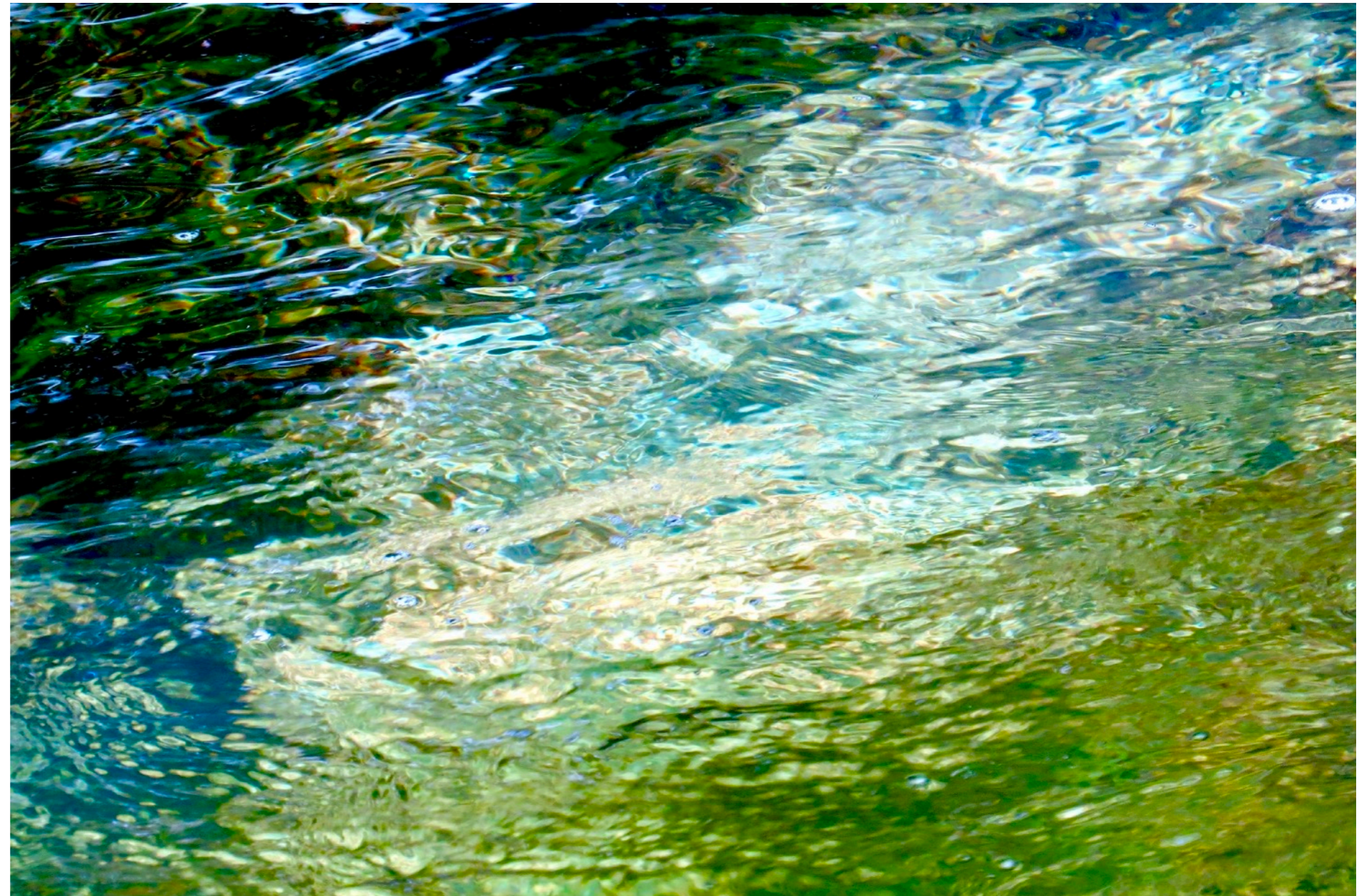
※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

知ること
じぶんが
偉くなったと
思ってしまうとき
知ことは
魂を損なってしまう

知ること
力を求めたとき
求める者は
やがて力によって
傷を負うことになるだろう

知ることが
愛することであるとき
愛する者は
魂の養われてゆくことに
驚くだろう

そして
愛すること
そのものの中にある
なにかに出会い
涙こぼるるだろう



鏡に
向かうとき
鏡は
何も答えない

鏡は
ただ
鏡に向かう
姿を映すように

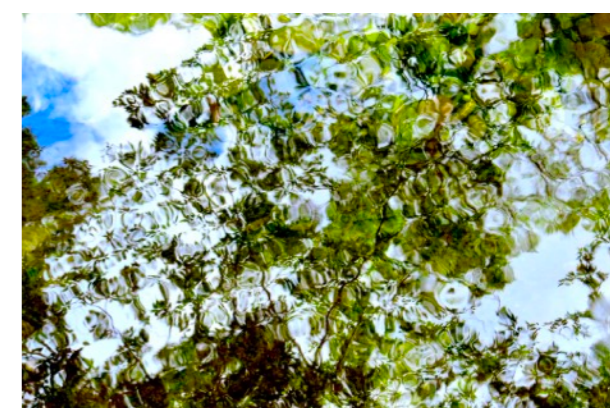
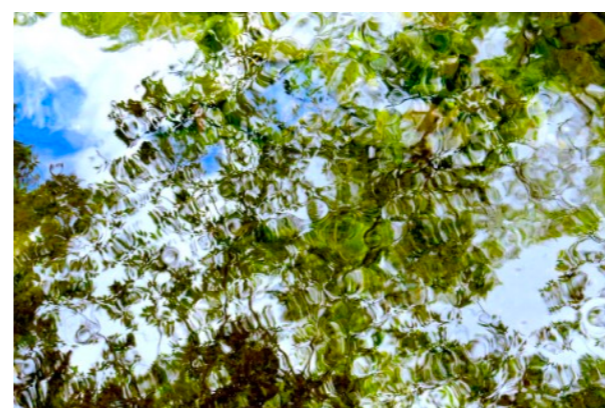
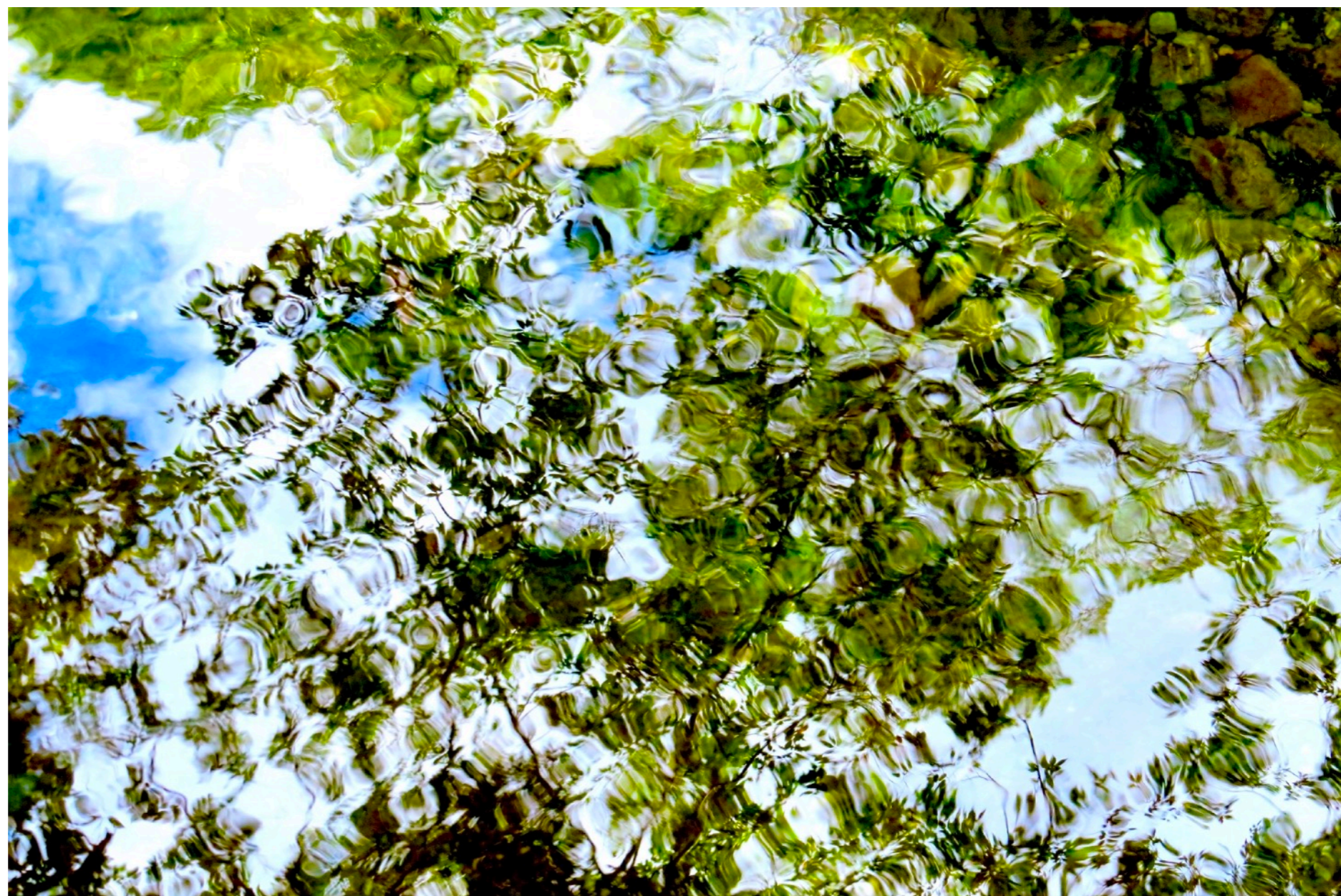
祈るとき
そこには
祈りだけが
映っている

祈りそのもの
ではないことのために
祈りを使うとき

その祈りはすでに
祈りではないものを
そこに映している

祈りが
ただ
祈りであるとき
祈る者は
みずからの深みに
祈りを見ている

そのためにこそ
祈りはある



☆photopos-3312 2023.10.3

ごめんなさい
というだけで
ごめんなさいになるときと
そうはならないときがある

言葉は厄介だ

すみません
ということが
ありがたいになるときもあれば
すまなくなるときもある

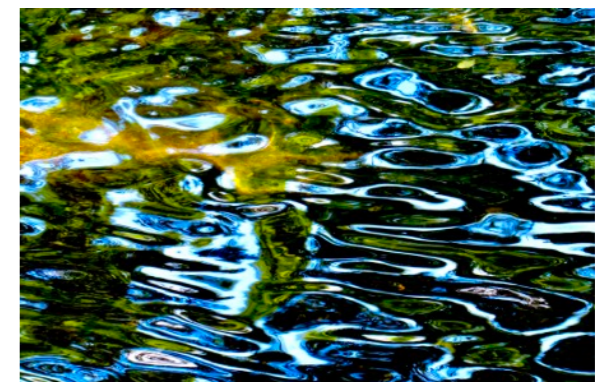
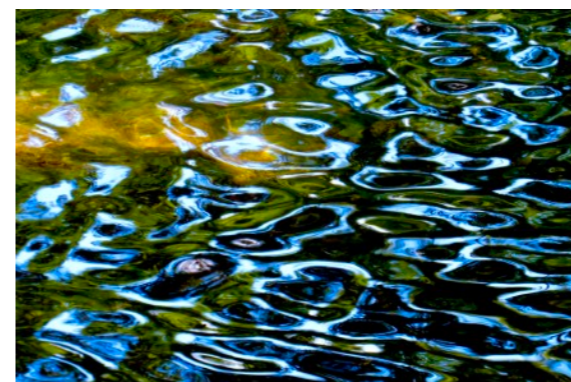
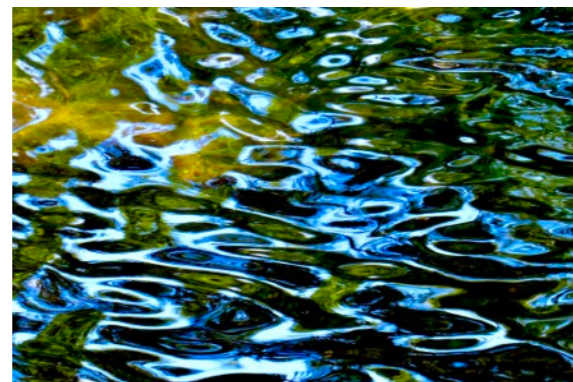
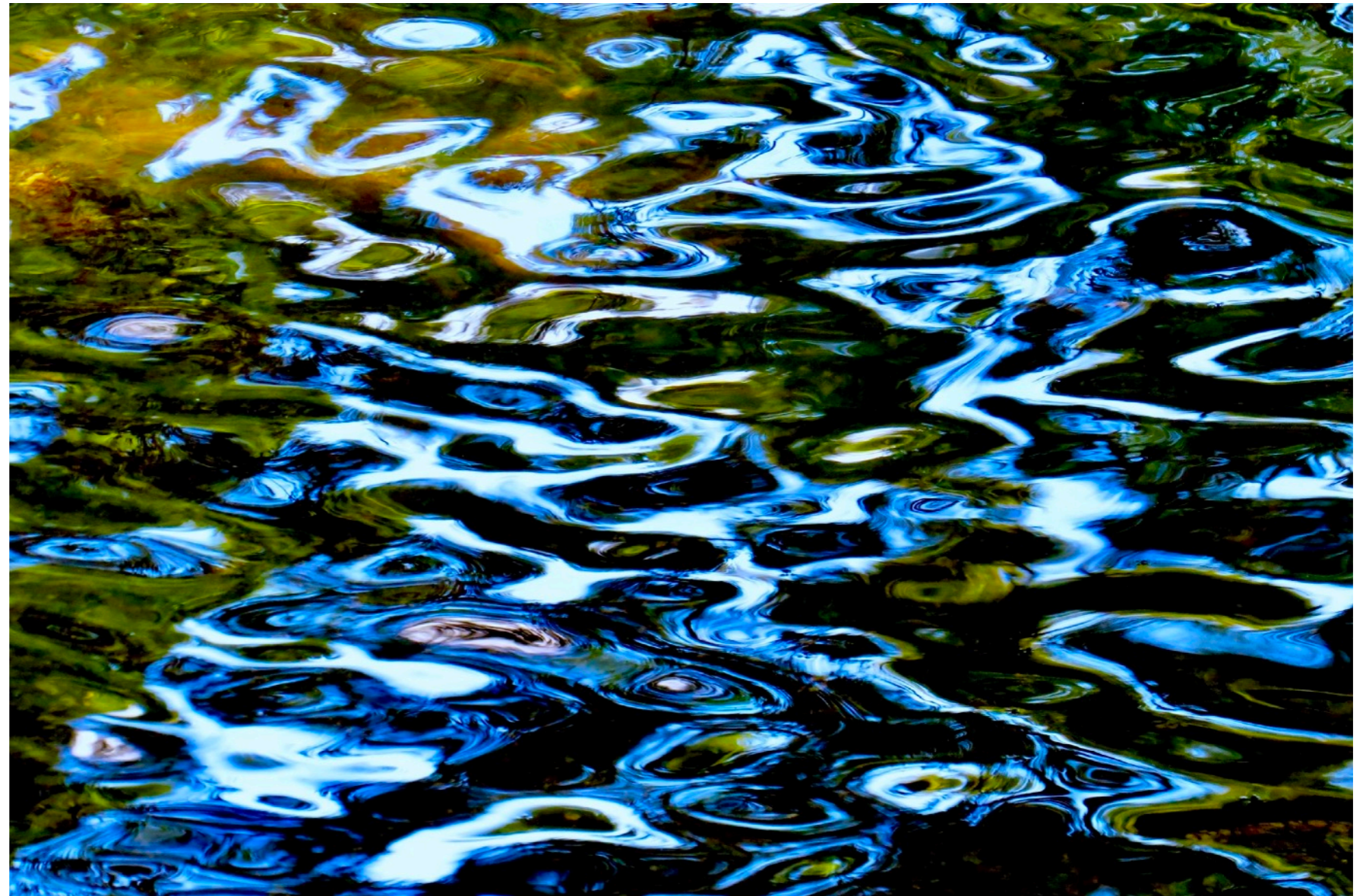
心は厄介だ

愛している
ということが
愛することそのものであるときと
ほんとうはそうではないときがある

愛は厄介だ

正しい道を
歩いているつもりでも
錯誤した迷路を
さまよっているときがある

道は厄介だ



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

ことばは
なにを伝えるか

ひとは
ことばに
とられるが

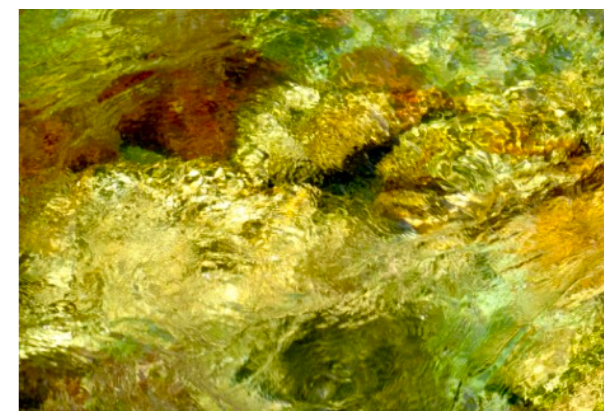
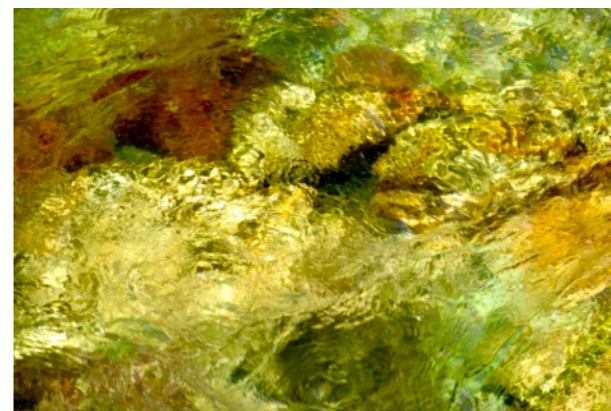
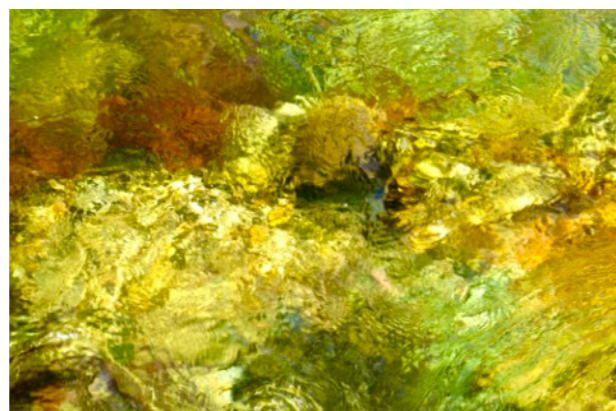
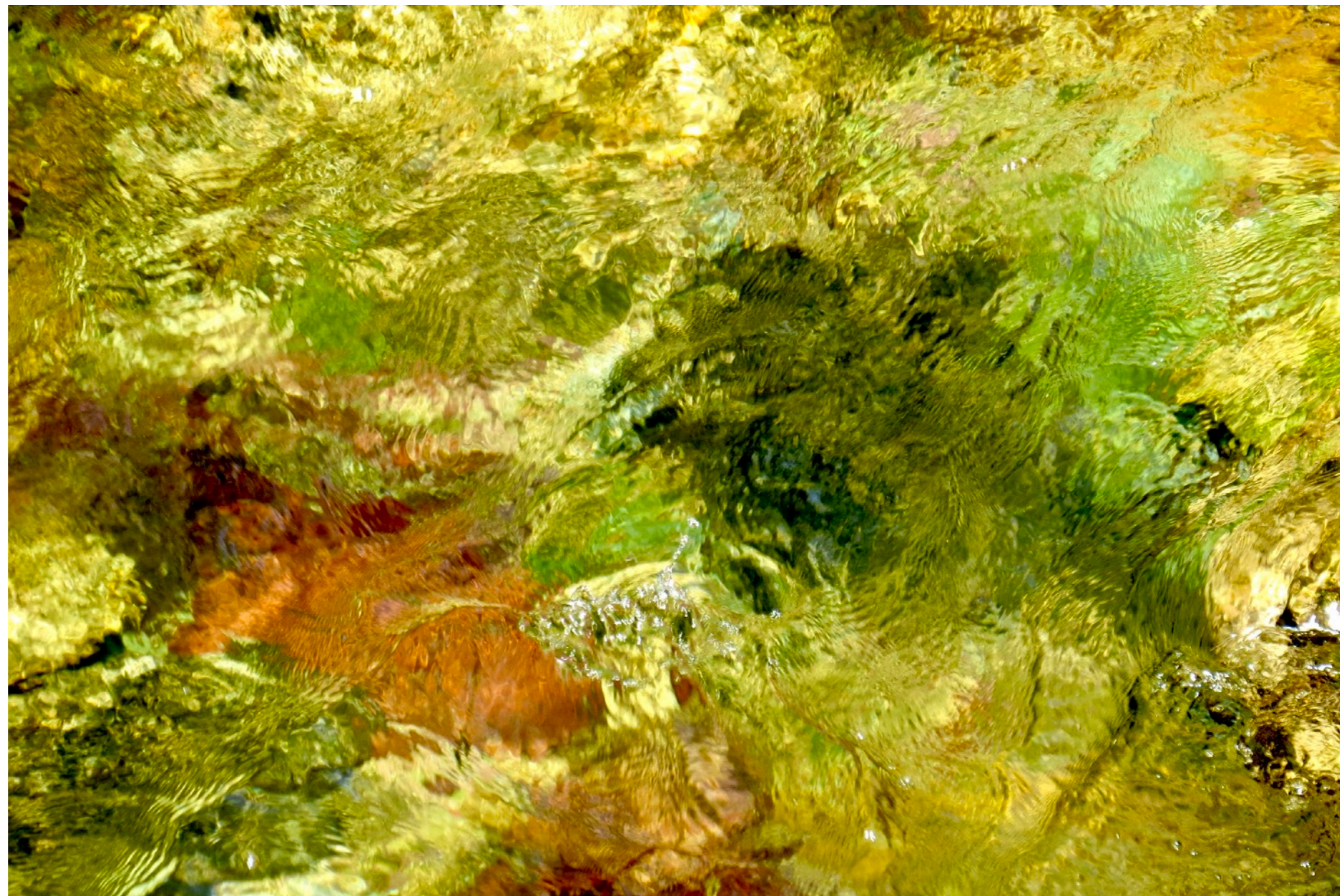
ことばが
伝えるものは
その仮面にすぎない

仮面は
顔を覆い
隠すものだ

ことばは
ことばにならないものを
伝えている

ことばに映る
光源にあるものをこそ
観なければならない

その身体を
その香りを
その調べを



勝つこと
負けること

成功すること
失敗すること

善きこと
悪しきこと

正しいこと
間違ったこと

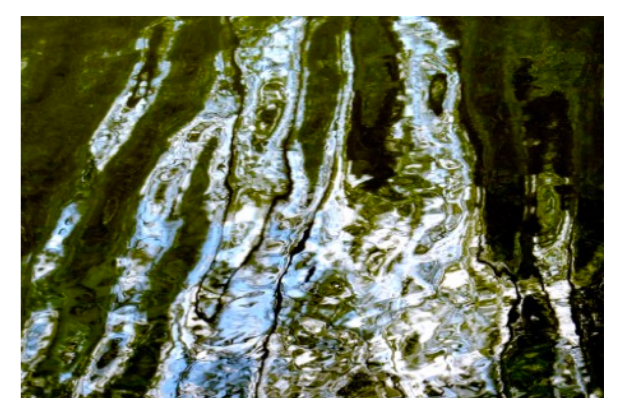
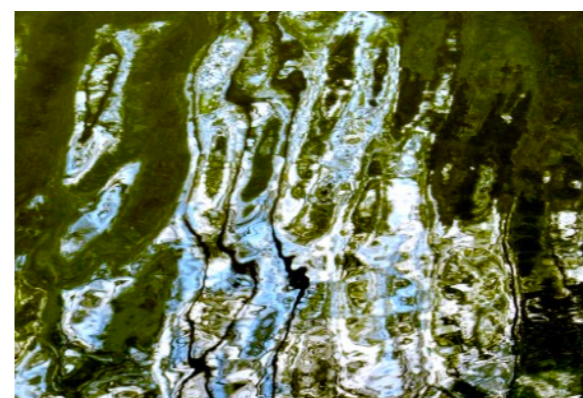
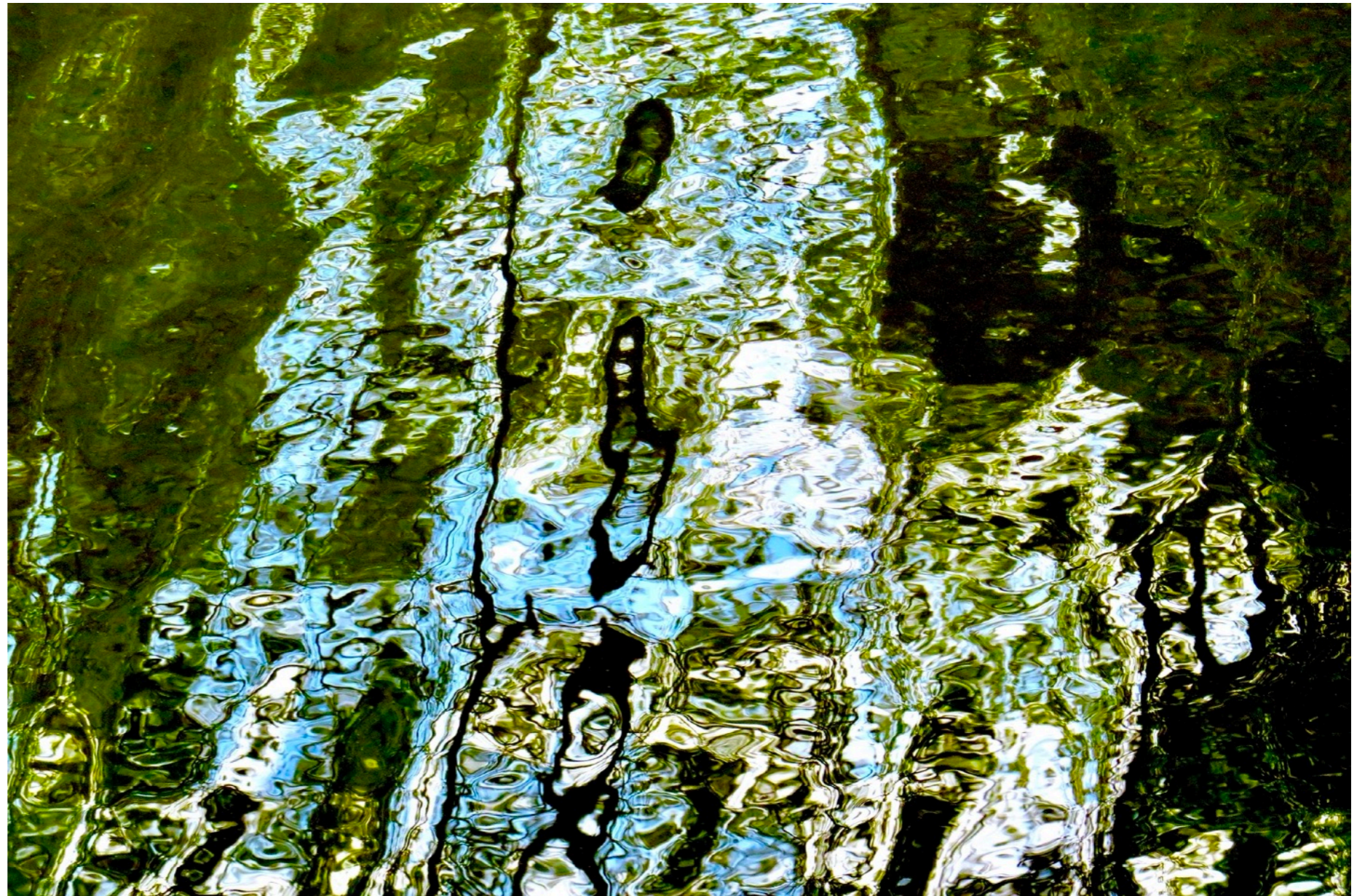
豊かなこと
貧しいこと

美しいこと
醜いこと

わたしであること
わたしでないこと

そんなみんなを
どれだけ
じぶんのなかに
見つけられるか

わたしは
世界から生まれ
世界を自分から切り離し
それをまた受け容れながら
わたしになってゆく



わたしのなかに
ことばはない

ことばは
わたしのなかを
通りすぎる

ことばは
どこからか訪れ
どこかへと去ってゆくが

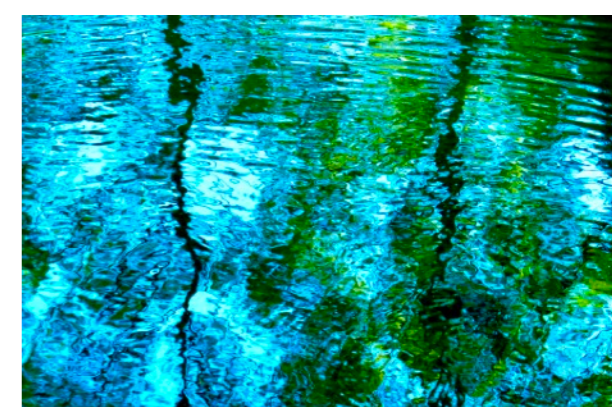
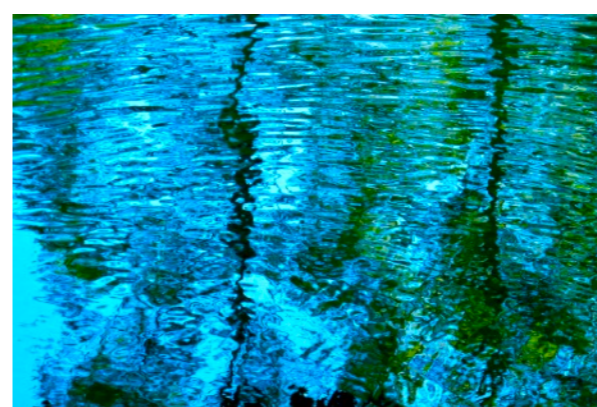
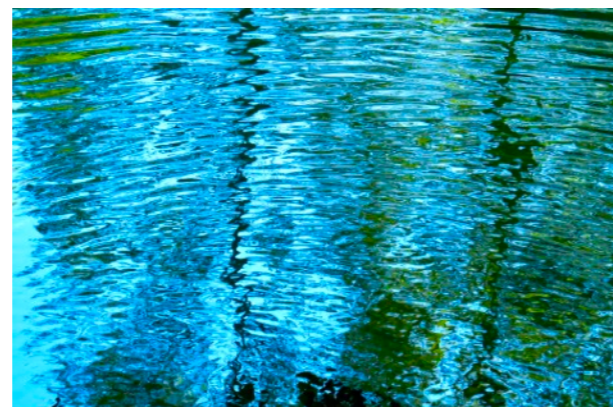
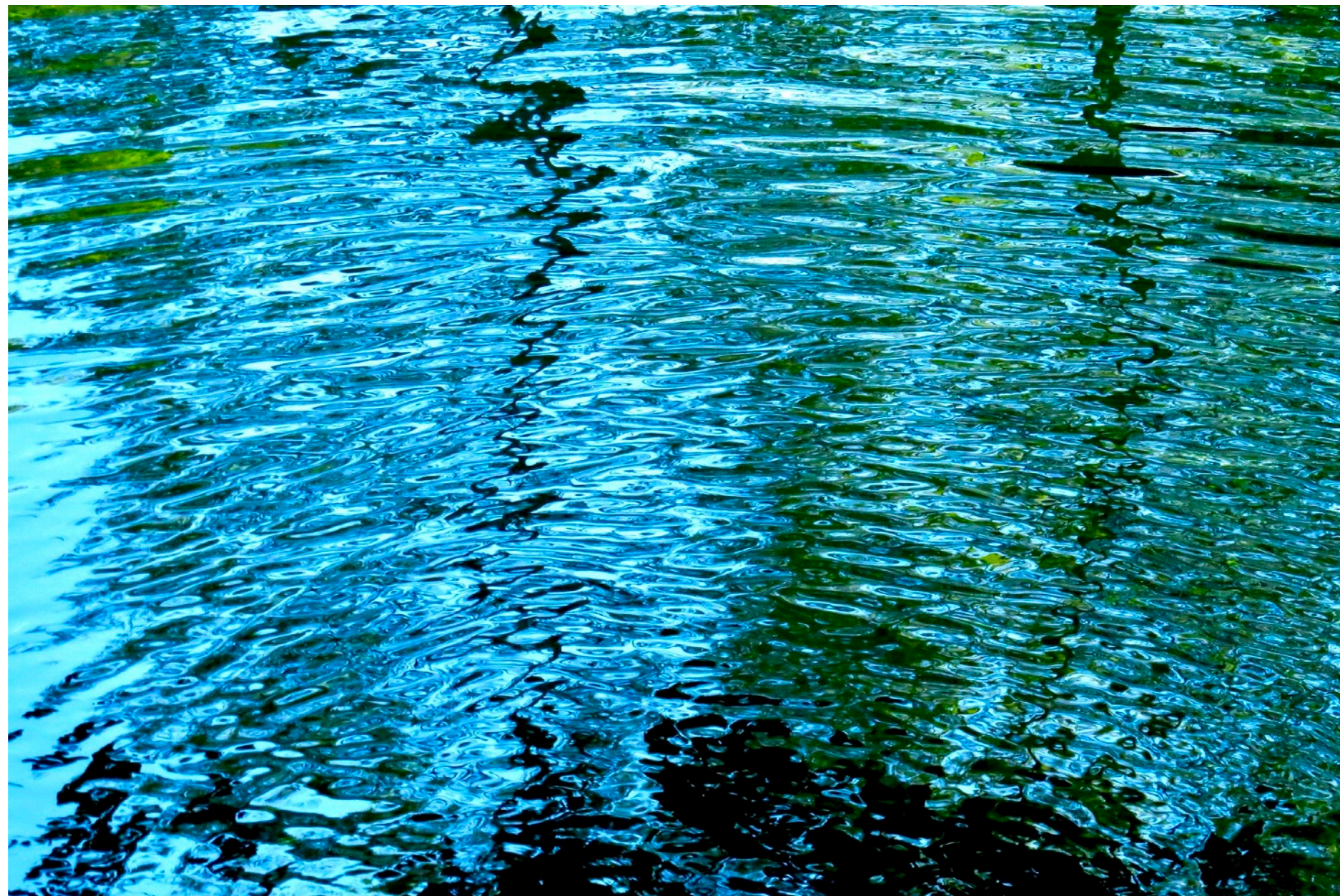
わたしは
かけがえのない歌を求めるように
ことばを求め
わたしのなかに響かせようとする

わたしのなかに
こころはない

こころは
わたしのなかを
通りすぎる

こころは
どこからか訪れ
どこかへと去ってゆくが

わたしは
ほんとうの食べものを求めるように
こころを求め
わたしを充たそうとする



わたしのなかの
みんなが
そうしようとするから

そしてそれは
よくわからないままに
おしえられたことだから

わたしは
そんなみんなから
はなれて

おしえられたことを
たしかめることにする

わたしのなかの
みんなが
わすれてしまっているから

そしてそれは
わすれては
いけないはずだから

わたしは
そんなみんなから
はなれて

わすれていることを
おもいだそうとする



過去に
戻ろうとするのではなく
未来に
投影しようとするのではなく

私に
閉じ込められるのではなく
群れを
生きるのではなく

いまここで
永遠とともに
私という開かれを
生きることはいかに

刹那主義ではなく
ユートピアを夢想するのではなく

じぶん（たち）だけの
ほんたうの神さまを
信じるのではなく

光と闇を超え
善と悪を超え

ひとりのなかで
すべてに結ばれながら
自由を生きて



※愛媛県総合運動公園にて

作る者は
作ることで
作られ

作られる者は
作られることで
作り

使う者は
使うことで
使われ

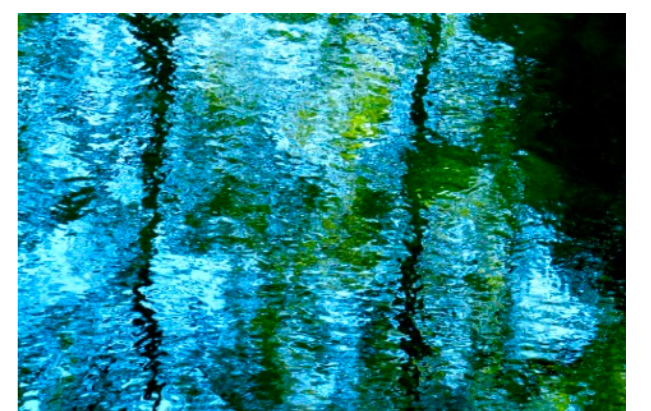
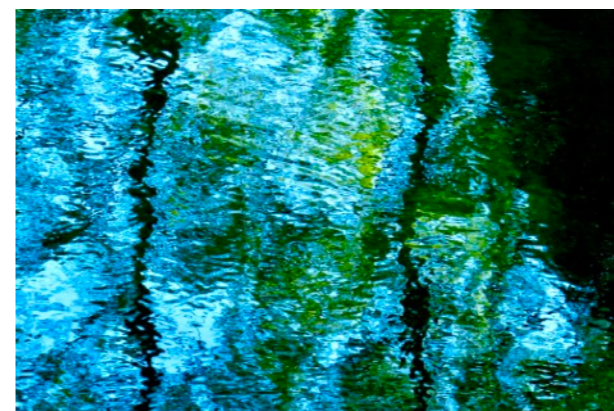
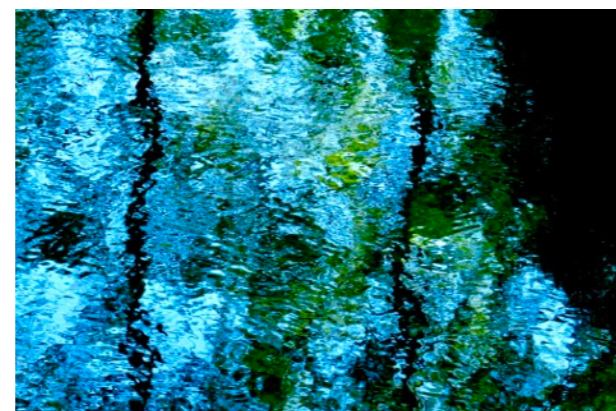
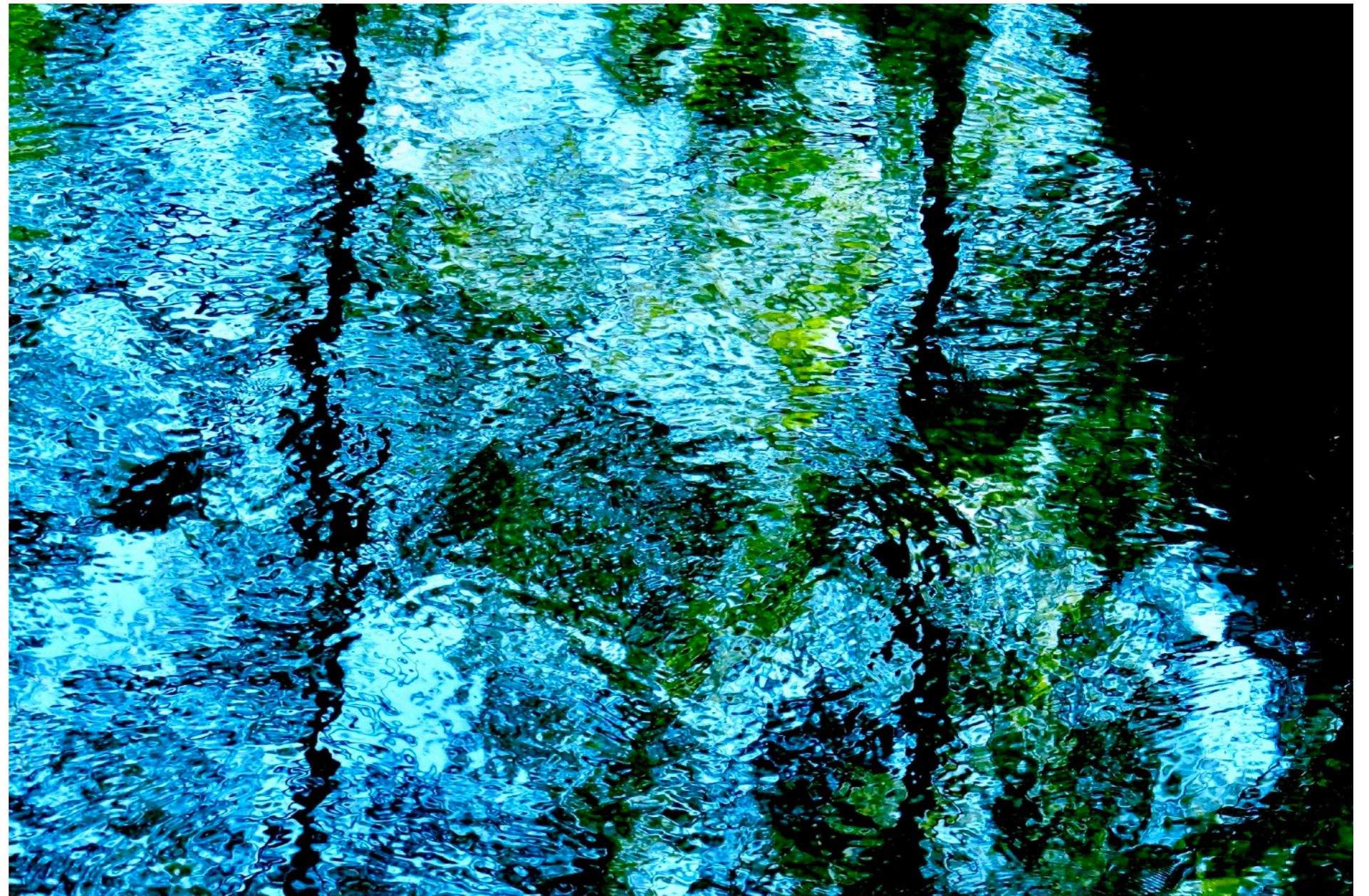
使われる者は
使われることで
使い

与える者は
与えることで
与えられ

与えられる者は
与えられることで
与え

映す者は
映すことで
映され

映される者は
映されることで
映し



※愛媛県総合運動公園にて

なにを
探しているのだろう

なにを
探しているのかさえ
わからないまま

探すことで
見つかるなにかのために

探すことの果てにある
なにかのために

ただ探している

なぜ
知りたいのだろう

なにを
知りたいのかさえ
わからないまま

知ることで
ひらかれるなにかのために

知ることの果てにある
なにかのために

ただ知りたいのだ

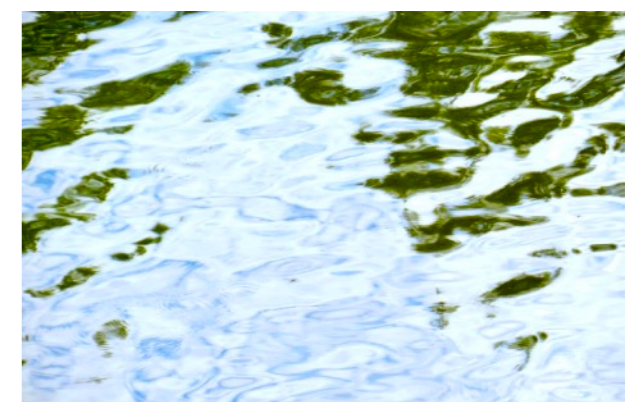
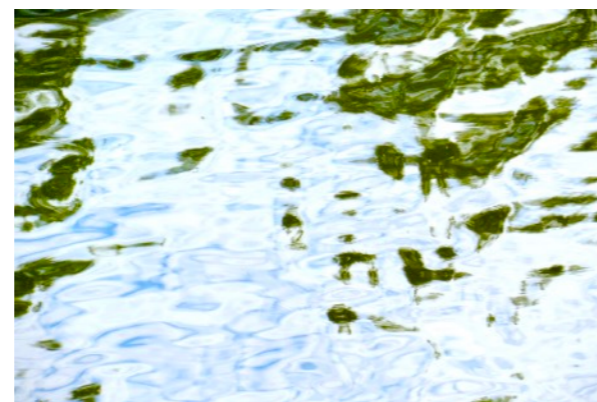
なぜ
求めるのだろう

なにを
求めているのかさえ
わからないまま

求めることで
得ることのできるなにかのために

求めることの果てにある
なにかのために

ただ求めている



なぜ
欲望し
所有し
支配するのか

つかのまの
生のために

なぜ
競い
勝り
誇るのか

つかのまの
優越のために

刹那の
優越に
疲れたとき

ひとは
愛し
歌い
遊ぶのではないか



※四国カルストにて

ことばは
どこから
くるのだろう

意味は
どこから
くるのだろう

ぼくのなかに
あるのだろうか

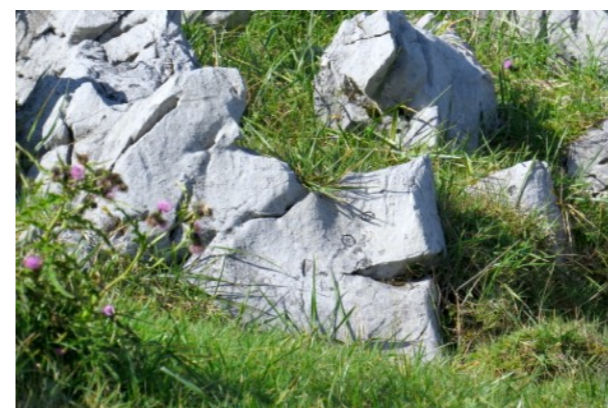
ぼくのことばは
ぼくだけのことば
というのではないようだ

ぼくの
ずうっと奥に
降りていけば
降りていくほど

ことばと意味のうちゅうは
知らないひととも
つながりあいながら
どこまでも広がっている

ぼくのことばは
そのうちゅうから
ぼくという小さな出口を使って
でてきたものらしい

そしてぼくのことばは
またぼくの奥へと降りていって
そのうちゅうとなっていく



※四国カルストにて

☆photopos-3322 2023.10.13

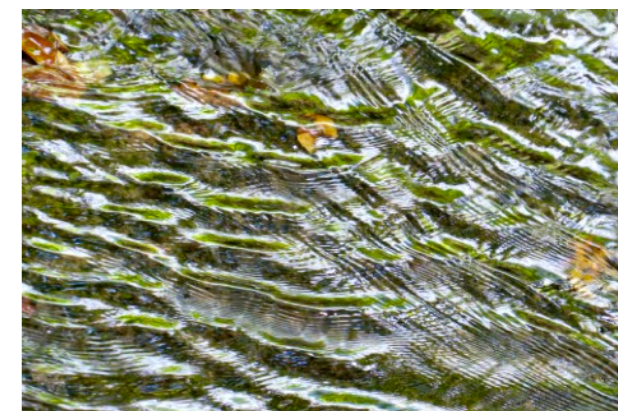
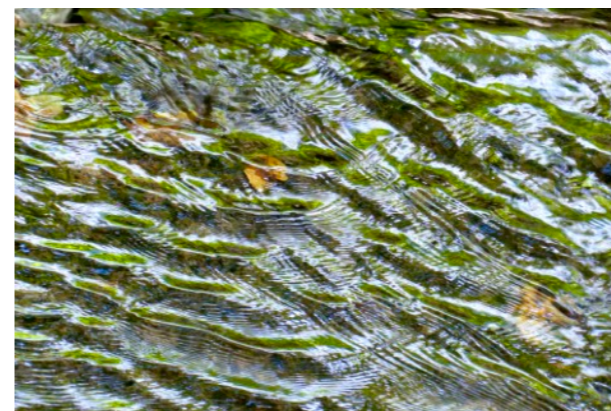
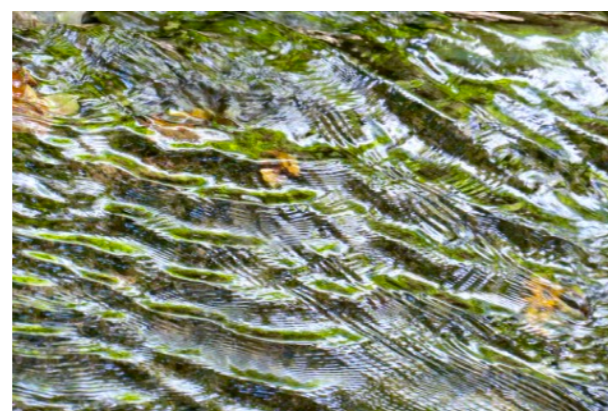
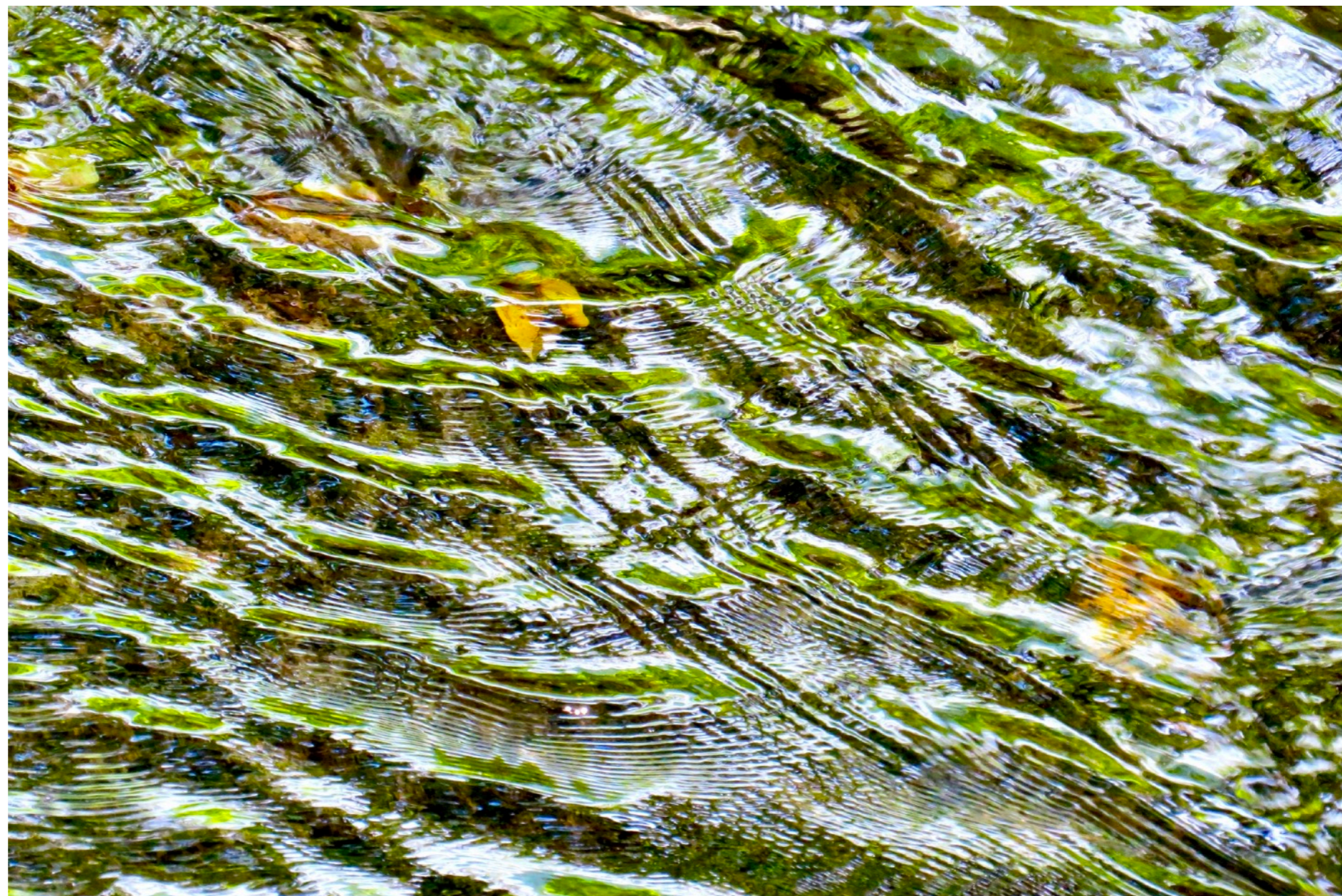
ものにする
とは
たしかに
預かること

わたしの手で
預かることで
拓くことだ

手にする
とは
手から放せる
自由のことだから

託されたものは
贈らねばならない

贈ることで
せかいは
あらたに
めぐってゆく



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

知性にこだわると
知性が拒んでいるはずの
反知性と似てくる

知性には
知性という
壁があるからだ

知とみなされないものが
壁で見えなくなってしまうのだ
定義にこだわりすぎることで
それが生命を失ってしまうように

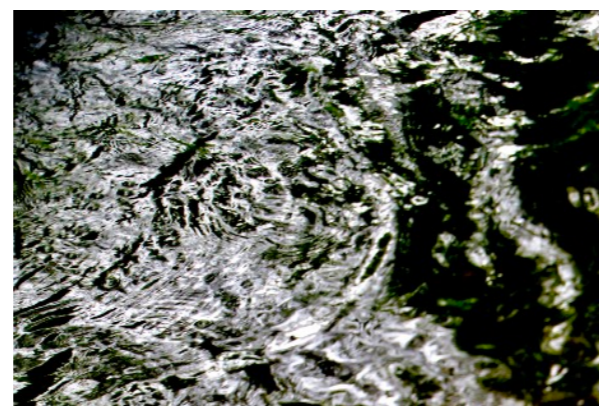
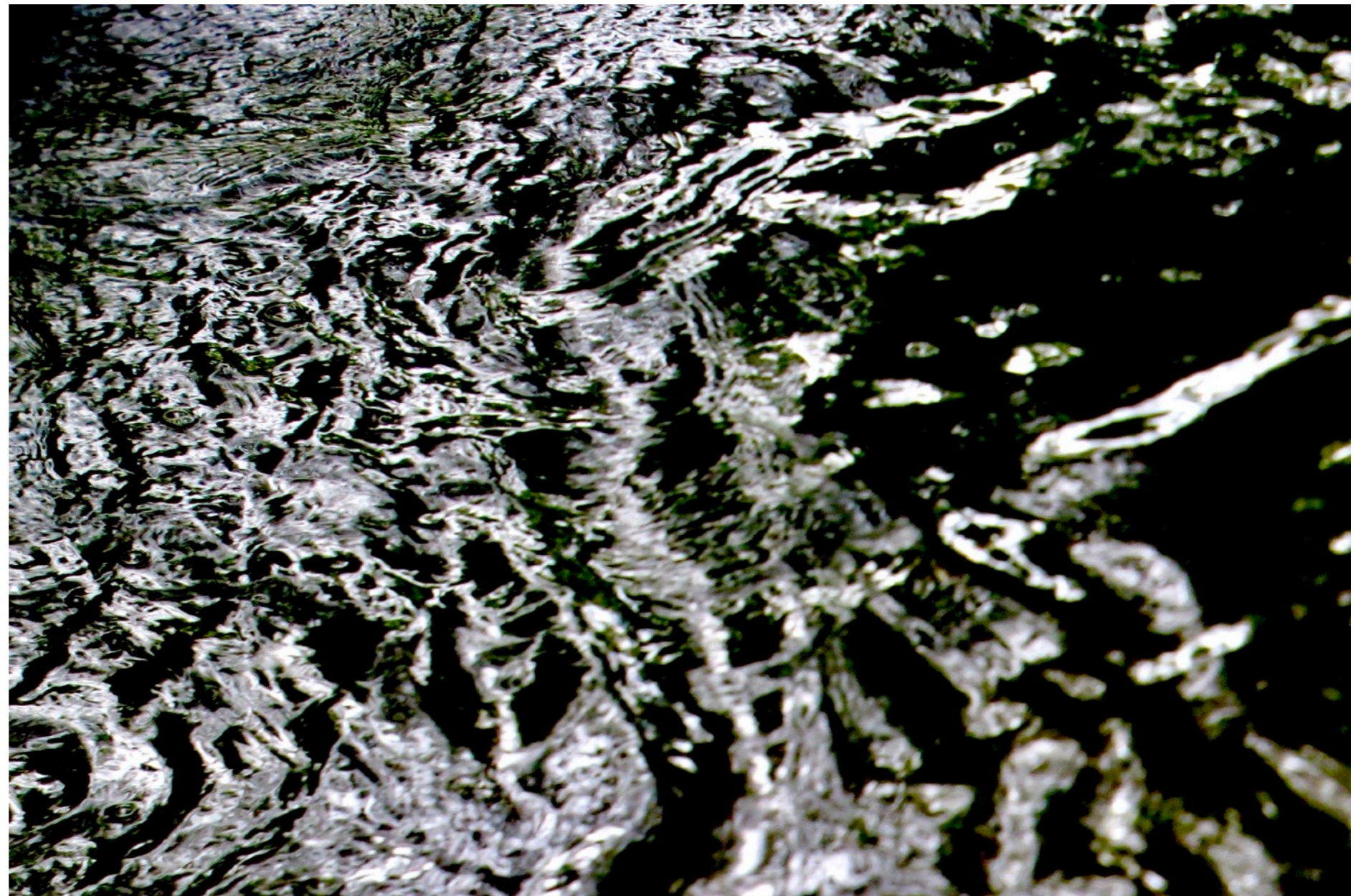
ひらかれた知が
いのちを潤せますように

光にこだわると
光が拒んでいるはずの
闇と似てくる

光には
光という
壁があるからだ

光とみなされないものが
壁で見えなくなってしまうのだ
善にこだわりすぎることで
それが生命を失ってしまうように

ひらかれた光が
闇とむすばれますように



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

☆photopos-3324 2023.10.15

生きるとは
遊ぶこと

遊べば
遊ぶほどに
自由になり

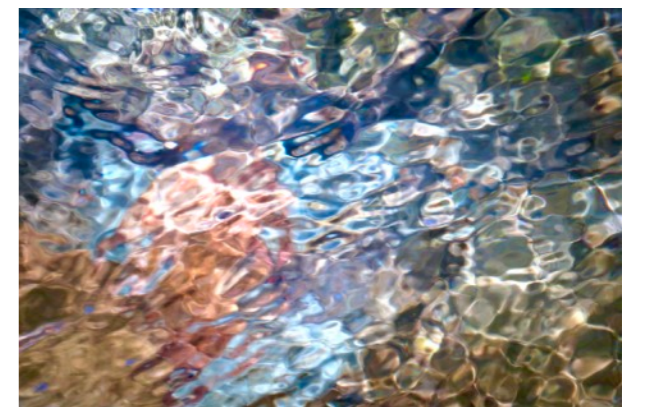
自由に
なればなるほどに
精神は飛翔してゆく

世界は
ことばから
生まれたのだという

ならば
ことばが
遊びに
満ちているとき

ことばは
自由のもとに
精神を飛翔させるだろう

そんなことばを
自在に遊べますように



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

悲劇を
喜劇として
観てしまうように

笑ってはいけないのに
笑ってしまうことはないか

笑っているじぶんを
見つめる自分をも
笑いながら…

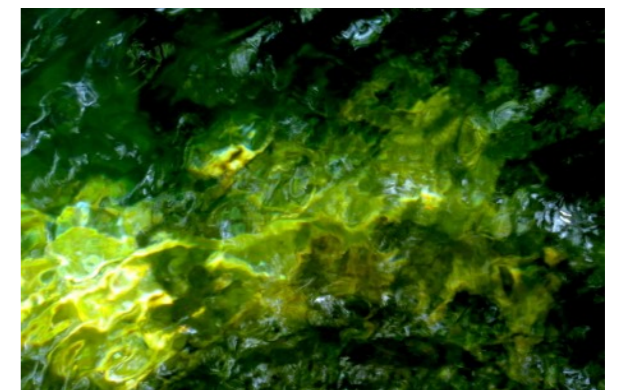
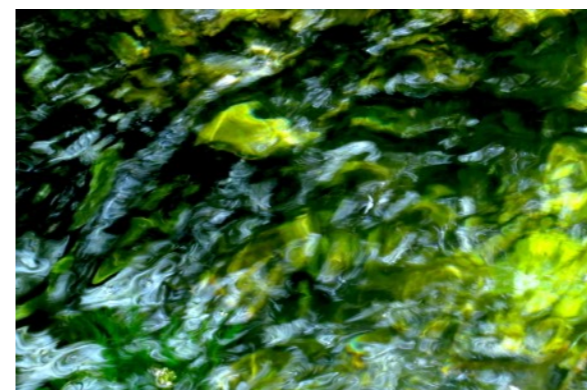
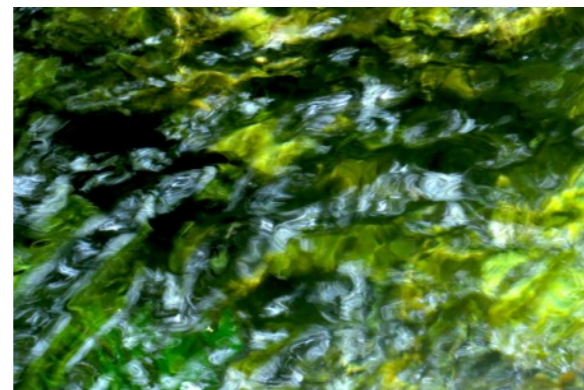
笑っているのは
わたしなのに
だれが笑っているのか
わからなくなるときはないか

からだは
笑っているのに
こころは
笑っていないときはないか

笑いの奥には
なにがあるのだろうか

仮面のなかに潜む
隠された顔の主が
笑っているのだろうか

やがて
こんな顔を見たいのかいと
仮面の外されるときがくるのだろうか



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて